



鼻孔は眼よりも2倍以上吻端に近い。吻には黒い口輪をはめたような横帯がある。



大柄な横帯のある色彩型（ベル型といわれる）。この色彩型は乾燥地帯に多い。



尾は強く側偏し、コモドオオトカゲよりも長い。



四肢にも横帯が入る。

デュメリルオオトカゲ 〈うなじの鱗が小円板〉

学名：*Varanus dumerilii*

外国語名：Dumeril's Monitor, Forest Monitor, Brown Rough Necked Monitor, Duméril'slscher Waran, Tut-too, Hao-chang-kaio, Biawak Kudon, Dumerilscher Waran

異名：デュメリルモニター、フォレストモニター、ブラウンラフネックモニター、

原産地：ミャンマー南部からスマトラ島・ボルネオ島

体長：最大全長 120cm±（頭胴長 53cm±）

類似種：サバンナオオトカゲ、ザラクビオオオトカゲ

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1975～2009年)：1,652 個体

①頭部の形態

- ・吻は扁平。
- ・鼻孔はスリット状で吻端より目に近く、斜めに開く。

②鱗の形態、尾の断面の形

- ・全身が一様に細かい鱗で覆われることがオオトカゲ類の特徴であるが、本種はうなじの鱗が大きくなっていることが特徴である。
- ・頸板は丸く大きいギール（うね状の角ばり）はない（図 7A）。
- ・尾は著しく側扁し、尾率は約 1.5。
- ・尾鱗は環状に配列しない（図 4A）。

③体色と模様

- ・成体は褐色で、眼の後方に黒い帯模様がある。背面には淡褐色の横帯がある。
- ・幼体は独特の派手な色彩をしており、頭はオレンジ色で眼の後方の黒帯が明瞭であり、胴から尾にかけては黒く、淡黄色のはっきりした横帯が目立つ。全長 30cm 程度になると、この派手な体色は失われてゆく。

④類似種との比較

ザラクビオオトカゲ（本マニュアルには掲載されていない）は頸板にキールが強く、ざらざらしている。サバンナオオトカゲは尾鱗が環状に配列する。



幼体は鮮やかな色彩をしている。



尾鱗は環状に配列しない。(図 4A)



頸板は丸くて大きい。(図 7A)



尾は尾端に向かってすぐに側偏する。



幅広い横帯はたいがいあるが、模様はかなり乱れることもある。

ミズオオトカゲ 〈黄色いリングがある〉

学名：*Varanus salvator*

外国語名：Water Monitor, Salvator's Monitor, Asian Water Monitor, Banded Monitor, Bidenwaran, Kabara Goya, Biawak, Tua Nguen Tua Tong,

異名：メダマオオトカゲ（皮革業界名）、リングマークトカゲ（皮革業界名）、ウォーターモニター、サルバートルモニター、アジアンウォーターモニター、バンデッドモニター

原産地：中国南部からインド東部・スリランカ、インドネシアの小スンダ列島までのアジアの広範囲

体長：最大全長 120～250cm±（頭胴長 45～85cm±）

類似種：ナイルオオトカゲ、マングローブオオトカゲ

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1975～2009年)：33,873 個体

①頭部の形態

- ・眼上板が分化している数少ないオオトカゲ類の一種。
- ・鼻孔はほぼ楕円形で、目よりも吻端に近い。
- ・鼻孔から目までの距離は鼻孔から吻端までの距離の2倍以上ある。

②鱗の形態、尾の断面の形

- ・尾は基部直後から側扁する。
- ・各々の腹鱗にはキール（うね状の角ばり）がある。
- ・体周鱗列 85～95 列。

③体色と模様

- ・分布域が広く、色彩の地域的な変異、個体ごとの変異とも大きい。
- ・黒褐色の地に黄色っぽい横帯や点模様があるものが多いが、ほとんど無地のものもある。
- ・全身が黒く、模様が全くないものもある。
- ・体の黄色みが強く、特に頭部が鮮やかな黄色のものもある。